



完成した推薦書案などを有松郁子文化庁次長（右）に手渡しました（左から、谷井博美市長、江口勝福岡県企画地域振興部長）

県、宗像市、福津市などで組織する「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議が3月24日、文化庁に推薦書（素案）と包括的保存管理計画（素案）を提出しました。

両素案の文化庁への提出は、昨年4月に続き2回目。昨年提出時に指摘された事項を含め、考古学などの専門家と共に、さまざまな視点で検討を重ね、完成度を高めたものを提出しています。



「新宿る島」 宗像・沖ノ島と関連遺産群

名称を変更し文化庁に提出

今回の素案では、推薦遺産の名称をこれまでの「宗像・沖ノ島と関連遺産群」から、「新宿る島」へ変更。これは、資産の名称は資産価値を端的に表すことが前提で、議論の結果、1月19日の専門家会議での意見を踏まえて、3月1日の世界遺産推進会議で決定されました。

府推薦を希望したのは、本遺産を含め、北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群「金を中心とする佐渡鉾山の遺跡群二百舌島・古市古墳群」の4件です。文化庁は、7月ごろ、今年推薦する遺産を決定する予定です。その後、9月ごろ、政府推薦が決定。平成28年2月に政府がユネスコに推薦します。

河東西小学校で3月2日、タブレットを使った授業が公開されました。市、福岡教育大学、福津市教育委員会の共同研究プロジェクト「実践的なICT（情報コミュニケーション技術）活用」での教員研修の一環として実施しました。

「タブレットを開いて見せることができるので、子どもたちの理解が進みます」と縄田浩美先生。子どもたちからは「タブレットを使う授業は楽しい」「もっと使いたい」との声が聞かれました。

市では、ICT活用の研究モデル校として、河東西小学校と日の里中学校にタブレット端末をそれぞれ50台配備し、授業で効果的に使えるICTの研究を実践していきます。

タブレットって楽しいね！



電子黒板とタブレットを使いながらの授業

今年の標語は「本はキラキラ万華鏡」



4月23日(木)～5月12日(火)は「こどもの読書週間」



「子どもたちにもっと本を！」との願いから、「こどもの読書週間」は1959年（昭和34年）に始まりました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間でしたが、2000年から、今の4月23日（世界本の日・子ども読書の日）～5月12日になりました。

小さいときから本を読む楽しさを知っていることは、子どもが大きくなるためにとても大切なことです。「こどもの読書週間」は、図書館や各書店、学校などで、読み聞かせや人形劇などの楽しい行事がたくさん開催されます。また、大人が、本を子どもに手渡す週間でもあるのです。



大人も子どもも楽しめます（昨年のおはなし会の様子）

市民図書館でも、この期間に「おはなし会スペシャル」を4月28日(火) 11:00から、えほんのへやで開催します。ぜひ参加してください。

初心者のための「読み聞かせ」講座

市民図書館では、絵本の「読み聞かせ」ボランティアに関心のある人のための講座を開催します。「読み聞かせ」ボランティアをしてみたい人、どのような絵本を選べばよいのか迷っている人にお勧めです。参加無料。

●日時・内容 下表参照

回	日程	内容
1	5月25日(月) 10:00～12:00	「読み聞かせ」ってなあに？
2	6月8日(月) 10:00～12:00	実習「読み聞かせをやってみよう」他

- 場所 メイトム宗像・102会議室
- 講師 市職員
- 対象 ボランティア未経験か経験が1年未満の人で、全2回出席できる人
- 定員 抽選で10人程度
- 申込締切日 5月15日(金)
- 申込必要事項 ①住所②氏名③電話番号
- 申込先 宗像クリックス図書館
▽ハガキ=〒811-3437/久原400
▽FAX (37)2956
▽E-mail:otosyo@city.munakata.fukuoka.jp
*市民図書館各窓口でも申込可
- 問い合わせ先 市民図書館 ☎(34)2263